

令和3年度 第1学期終業式式辞

今年の梅雨は気象統計が取られて以来、最も長かったようですが、ようやく先日（17日）に明けました。その期間中の豪雨で、特に静岡県熱海市での土石流により多くの方がお亡くなりになり、今なお行方不明の方もおられます。あらためて、皆さんとともにお見舞いを申し上げたいと思います。

さて、本日は一学期終業式。このコロナ禍の中でコロナ感染による臨時休業をすることなく、無事に今日を迎えられたことを嬉しく思うとともに、これまで皆さん一人一人が自覚をもって感染防止に努めてくれたことに感謝したい。ただ、全国の感染状況はまだまだ予断を許さない状況であり、変異株（デルタ株）が拡大しつつあって、10歳・20歳台の若い人の感染割合が増えています。今後も感染防止に留意し、部活動の更衣時やミーティング時は必ずマスクを着用し、対面での食事も絶対に避けてもらいたい。私も含めお互いに可能な限りの対策を講じて、さまざまな活動を途絶えさせないようにしていきたいので、皆さん協力してください。

そうしたなかであって、日本でも世界でも、いろいろな活動やイベントが行われています。

先日も、アメリカ大リーグのオールスターゲームでの大谷翔平選手の活躍が注目されました。彼は花巻東高校に在籍していた頃から、高校1年生のときに書いた「目標達成シート」は有名で、君たちも何度となくその話を聞いたことがあると思います。今、大リーグでの活躍もあって、その「目標達成シート」があらためて話題となっています。

彼の高1のときの夢は「8球団からのドラフト1位指名」でした。そして、その夢を達成するために必要な要素を8つ挙げていました。

「体づくり」「人間性」「メンタル」「コントロール」「キレ」「スピード160キロ」「変化球」「運」です。さらに、それぞれの要素を達成するための具体的な行動目標もそれぞれに8つ挙げています。

私は、この8つの要素のなかで「人間性」「運」というのは、だれがどのような夢を描いたとしても、その達成のために必要な要素だと考えます。彼は「運」を手にするために「プラス思考」「あいさつ」「ゴミ拾い」などを意識しました。大リーグのゲーム中もゴミがあれば拾うという行為は、「運」を拾うことにつながるの教えを守っているのです。また、「人間性」を高めるための具体として「思いやり」「感謝」「礼儀」「信頼される人間」などを挙げています。大谷選手が大リーグで人気があるのは、卓越した能力はもちろんですが、優れた人間性を評価されているのでしょう。

ここで、人間性に関わっての話をしておきたい。いじめ問題についてのことです。

本校では、年間3回の「いじめアンケート」を実施して、その対応を行っているところです。アンケートをとおして、様々な状況を伝えてくれていることはありがたいと思っています。そして、学校として、記載内容について迅速丁寧に対応することが、アンケートに記入してくれた思いに応えることだと思っています。ただ、考えて欲しいのは、多くのいじめ問題が何気ない軽はずみな言動に端を発しているケースが多いということです。相手に対して意図的に「嫌なことを言う」「する」ということは悪質ないじめですが、特に悪意がないけれども発した言葉が、相手を深く傷つけることもあります。だから、すべての人が日頃から責任のもてる言動を心がけて欲しい。私たち教員も同様です。

実は数年前に、本校の中学校でいじめ事象が被害生徒からの訴えで発覚しました。被害生徒は、そのいじめが原因で心が深く傷付き、登校することも出来なくなり、長期にわたっての不登校に陥りました。そして、奈良学園高校への進学を断念せざるを得なくなり他の高校へ進学していったのです。被害生徒も夢や希望を抱いて、奈良学園中学校に入学してくれました。しかし、残念ながら本校での高校卒業は叶いません。いじめは、その人の平穏な学校生活を奪い、その人の将来にも深く影響を与えてしまう行為です。私は、こうした事態に及んだことを学校として深く反省し、本校でつらく苦しい経験をした被害生徒に思いを致し、あらためて、「いじめを決して行わない」「いじめを決しても見逃さない」学校であらなければならないと強く思っています。そのためには、皆さん一人一人の自覚と協力、そして人間性の成長が不可欠です。どうか、誰にとっても安心して過ごせる、そんな学校にしていきたいと思います。

さあ、「明日からはいよいよ夏休み！」と言いたいところですが、夏期講座・補習等で7月末までは普段どおり登校することになります。高校3年生は本格的な受験対策をさらにアップさせる時期です。「夏を制するものは、受験を制す」と言いますが、「夏の制し方」が重要です。「苦手科目の克服」なのか「遅れをとっている地歴公民や理科に時間を割くのか」「過去問に挑戦し、今の実力を見極めるのか」・・・人それぞれだろうと思いますが、先生方や先輩からのアドバイスに耳を傾け、必ず夏を制してください。

中学生や高I・IIの皆さんは、自らの目標に向け、今何をすべきかを考え、前向きな行動につなげてくれることを期待しています。

最後に、まもなく東京オリンピック・パラリンピックが始まります。開催の是非はさまざまに報道がなされていますが、出場するすべての選手は、それぞれに目標や思いをもって大会に挑まれます。

パラ陸上の、伊藤智也選手（57歳）は34歳の時に、進行性の難病を発症され、車いす生活を余儀なくされた方です。免疫に異常が生じる難病のため新型コロナウイルスに感染した場合、命に危険がおよびます。したがって、感染リスクの高い屋外での活動が厳しく制限され、感染を防ぐために5月まではほとんど外出をせず、その後の練習も競技場やジムの利用は感染リスクを避けるため人の少ない午前中に限定するなど、厳しい制約のなかで準備をされてきました。

伊藤選手は「僕には“ウイズコロナ”はない。基礎疾患のある僕にとって死に直結するウイルスで絶対にかかってはいけないので共存しようがなく、最大限、臆病にならざるをえない。この中で競技力を上げるのは非常に難しい課題だ」と話され、「パラリンピックは『生きる』ということばに秘められたパワーを表現できるチャンスだ」とも語っておられます。

健常者も障害をもっている人たちも、それぞれの人生を懸命に生きています。皆さんもそうです。大切なことは、他者の思いや考え、生き方を理解し、互いに尊重し合うことです。そうした意味からもこの夏、私は東京オリンピック・パラリンピックに出場される選手に学びたいと思っています。

皆さんにとって、この夏休み、まずは事故に遭わず健康に過ごし、意義ある期間にしてくれることを期待して、私の話を終わります。